

工業会活動

令和5（2023）年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQG（Japanese Aerospace Quality Group：航空宇宙品質センター）は、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG（International Aerospace Quality Group：国際航空宇宙品質グループ）に対応した国内組織として、平成13（2001）年、当工業会（SJAC）内に設置された。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。設立当初のメンバー数79社から、現在、519社に達し、多くの企業・団体のご指導を受けながら活動を展開している。ここでは、令和6（2024）年2月9日にJAQGメンバーに向けて開催された令和5（2023）年度のJAQG活動報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

数年間のコロナ禍を経て、日常生活はほぼ通常に戻ったが、この間に標準的なコミュニケーションツールとして定着したオンライン会議等を活用し、活動報告会は令和4年度に

引き続き、令和5（2023）年度もハイブリッド（対面とオンラインとの併用）での開催とした。

各種活動もオンライン会議を活用し効率的に実施し、JAQGは令和5（2023）年度に以下に示す活動目標の達成を通じ、我が国航空宇宙産業の品質向上、業務の効率化及びコストの引き下げを図ってきた。

- ・ JIS Q 9100認証制度の運営・管理
- ・ 国際品質規格の普及（日本語への翻訳出版）
- ・ 品質保証に関するガイダンス／ベストプラクティスの提供
- ・ 国内業界意見のIAQG活動への反映
- ・ 世界のプライム企業の品質要求動向把握等

今回、JAQGメンバーに向けて活動状況を報告するに当たり、各ワーキンググループが上記のJAQG活動目標達成に向け、どのように取り組んできたかに焦点を当てて行った。



報告会の様子（東京会場）；2/9開催 対面参加者数：58名 オンライン：190名

また、質疑応答では、会場及びオンラインからの質問を受け、それぞれ回答を行った。

3. 報告会の内容

報告内容（概要）を報告順に沿って以下に示す。（末尾かっこ内は報告者）

（1）9100シリーズの認証制度動向について （株式会社IHI 山本 博士 JAQG幹事長）

9100シリーズ規格は、組織の活動に応じて認証に適用する規格が、9100（設計・開発・製造）、9110（整備（MRO））、9120（販売（resell））の3種類ある。令和4（2022）年1月に認証制度に関わる規格である9104-1が改訂され、9100シリーズの認証を受ける組織は適用範囲に応じて9100、9110、9120それぞれの認証を得なければならなくなった（認証制度厳格化）。しかし、9100シリーズ規格それぞれの

適用範囲の定義に不明瞭な点があり、JAQGから、当面「認証に適用されるAQMS規格は組織の認証範囲及び顧客要求に基づいて選択すること」とする意見（以下、本件）をIAQGに出していた。並行して、OASIS新バージョンへの移行トラブル等の理由から9104-1実行の一時停止がIAQGから宣言されていた。各国のAQGもJAQGと同様の状況にあり、令和5（2023）年10月のIAQGサンフランシスコ総会で、本件の採用が決まった。本件を含んでの9104-1改訂内容実行の再開は令和6（2024）年5月の見込みである。

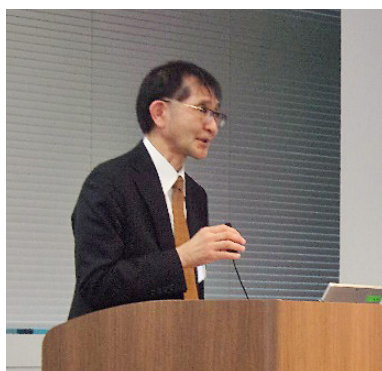
これにより、例えば9100認証があるが9110認証がない組織へ、顧客が整備（MRO）業務を依頼する場合に9100要求への合致を求めているのみであっても、IAQGの認証制度運用との不一致は生じないことになったと報告された。

(2) JAQG活動報告

(株式会社 I H I 山本 博士 JAQG幹事長)

9100シリーズ認証制度厳格化にも関係するため、今回はJAQG会員組織数とJIS Q 9100認証取得組織数に加えて、9110認証と9120認証を得ている組織数も参考として紹介された。

昨年3月に開催された令和4年度第2回運営委員会で承認された令和5年度活動戦略・事業計画に基づき、IAQG活動への対応、国内への展開、IAQGへのフィードバック活動、JAQG独自活動、関係省庁等のステークホルダーへの説明を実施した。トピックスとして、9100シリーズ認証厳格化に関するIAQGへの働きかけと、Single SDO (Standard Development Organization; 各セクターの規格発行団体を全世界で一つの発行団体とし、8か国語版を同時発行して運営する構想) への対応、次期JAQGロードマップ (2024年～2028年) の検討結果、エンジン品質勉強会の新規立ち上げ、などが報告された。



山本 JAQG幹事長 (株式会社 I H I)

(3) JRMC (Japan Registration Management Committee; 航空宇宙審査登録管理委員会) 活動報告 (株式会社 S U B A R U 西本 光男 JRMC議長)

9100規格の認証制度では9001等の他の認証制度とは異なり、業界が自らスキームオー

ナーとなって関係機関を承認・監視するしくみを構築することによって、制度自体の信頼性を高めている。JRMCは、このスキームオーナーとしてJIS Q 9100シリーズの認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動を行っている。令和5 (2023) 年度の主な取り組みとして以下の報告がなされた。

- ・ 認証制度の信頼性の維持・向上のため、ICOP (Industry Controlled Other Party Certification) スキーム規格に従い、国内認証制度の監視を計画通り (認定機関1、認証機関5、審査員資格証明機関1、研修提供者承認機関1に対するオーバーサイトを実施) に行った。
- ・ 認証制度の改正版への移行、一時停止及び再開に向けた対応を行った。
- ・ 審査員の資格基準や認証プログラム基準 (9104シリーズ規格、9101規格) に係るIAQG改正作業へ参画した。
- ・ SJAC9120認証制度の立上げ再開に向けた対応を行った。
- ・ JRMC会議/拡大会議/合同研修会を開催した。
- ・ 関係機関に対する定期オーバーサイト結果の活用とOP (Other Party) 監査員の育成に努めた。



西本 JRMC議長 (株式会社 S U B A R U)

(4) ワーキンググループ (WG) の活動報告 (各WG主査)

各ワーキンググループ (WG) 活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

(a) 規格検討WG活動報告

(株式会社SUBARU 小田 晴信 主査)

IAQGでの規格の制定・改正活動へ参画し、JAQGとしての意見を積極的にIAQGに対して提言、IAQG規格に対応する国内規格の制定・改正作業を行い、IAQG展開支援文書の充実拡大 (日本語翻訳版の発行) に努めていることが報告された。

IAQGにて制定／改正作業中の9125「非納入ソフトウェアの管理 (仮)」、9115「QMS 納入ソフトウェア」規格の概要が、また9100規格については改正が予定されている「品質文化」「倫理」「情報セキュリティー」など7項目について具体的な内容が報告された。

和訳版の規格であるSJAC9102「初回製品検査要求事項」、SJAC 9103「キー特性管理」の改正版及びSJAC 9163「適合証明書要求事項」の制定版が発行されたことが報告された。また、IAQGで取り組んでいるSingle SDO化に伴いJAQG内での新和訳プロセスを設定し9137規格 (IA9137_JAとしてSAEから発行予定) の和訳で試行していることが報告された。



小田 規格検討WG主査
(株式会社 SUBARU)



西口 潤 氏
(三菱重工業株式会社)

(b) 特殊工程検討WG活動報告

(川崎重工業株式会社 堀田 彰彦 主査)

特殊工程検討WGは、JAQGメンバーがNadcap認証 (National Aerospace and Defense Contractors Accreditation Program: 特殊工程プロセスの国際認証制度) を取得・維持するための支援を行っており、今年度の主要な活動として以下を実施したことが報告された。

- ・Nadcap監査基準であるAC (Audit Criteria) 等、PRI (Performance Review Institute) 文書の翻訳版／対訳版をJAQGメンバー専用ウェブサイトで公開 (ACの掲示点数: 58点)
- ・Nadcapの理事会 (PRI Board of Director) へのJAQG関係者の派遣
- ・SAE (Society of Automotive Engineers) 等への意見提言等の実施
- ・Nadcap受審ノウハウの集約・公開
- ・Nadcapシンポジウム (主催: PRI) への協賛及び支援

特に、技術的 (非破壊検査) な内容を扱うNadcapシンポジウム (主催: PRI) が2019年以来4年振りに東京で対面にて開催 (一般参加者: 62名) され、当WGで技術的な支援を実施したことが報告された。本シンポジウムではボーイング社や日本航空宇宙非破壊試験

委員会（NANDTB-Japan）からの参加も有り、一方通行的な情報提供の場ではなく、多くの活発な議論も生まれ、参加者から高い評価が得られたことに加えて、参加者交流の機会としても有効であったことが紹介された。



堀田 特殊工程検討WG 主査
(川崎重工業株式会社)



ダヴェンポート 悠 様
(PRI 日本事務所 マネジャー)

さらに、WG活動のトピックスとして、ダヴェンポート 悠 様（PRI日本事務所 マネジャー）からNadcapの最新活動状況を紹介して頂き、その中で、川崎重工業株式会社が2023年8月にNadcapサブスライバーとなったとの報告があった。

(c) スペースフォーラム活動報告

(日本電気株式会社 立岡 啓人 主査)

JAQGスペースフォーラム（以下、SF）は、国内の宇宙業界が一体となって、JIS Q 9100 品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品・サービスの品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

今年度を通して、国内ニーズの規格／ハンドブック／ツール類への提言、課題や良好事例等の共有、ステークホルダーとの意見交換を通じた関係強化を推進していることが報告された。

また、アジア太平洋地域唯一のSFとして、アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-29 2023年9月インドネシア ジャカルタ）に参加し、IAQG/APAQG活動の啓発や、国内を含む地域内のステークホルダーとの意見交換を実施したことに加えて、発展を続ける宇宙産業の品質マネジメント活動の状況を把握し、今後のSF活動計画に反映していく旨が報告された。更に、SCMH7.17章「宇宙分野への適用」の日本語翻訳が2023年12月に完了・リリースされたこと及びその概要について紹介された。



立岡 スペースフォーラム 主査
(日本電気株式会社)

(d) SCMH (Supply Chain Management Handbook) WG活動報告
(株式会社 I H I 佐藤 浩光 主査)

SCMHとはサプライヤのためのガイダンス文書、トレーニング資料及びベストプラクティスを集めた既存の規格を補足し、「どうすれば要求事項を満たせるのか」又、「どうすれば改善、向上を図ることができるのか」に焦点を当てた文書であり、その開発はIAQG戦略の重要な活動の一つである。SCMH WGは、このIAQGにおけるSCMH開発に参画している。令和6(2024)年1月現在で49項目のSCMHが発行されている。SCMH WGでは、作成・改正されたSCMHの日本語翻訳作業を順次実施し、その成果をJAQGメンバー専用ページに公開、JAQGメンバーへの普及を図っている。

今年度は、IAQG SCMH文書8件の和訳版を作成、更に現在4件の和訳作業に取り組んでいることが報告された。また、SCMH説明会をハイブリッド方式の名古屋会場で開催し、対面参加者18名、オンライン参加者120名に対して、模倣品の防止及び不適合製品の管理の二項目に関する説明を行い、アンケート回答協力132名のうち8割以上の参加者から“満足度が高い／やや高い”との評価がなされたことが紹介された。



佐藤 SCMH WG 主査
(株式会社 I H I)

(e) コミュニケーションWG活動報告
(JAQG事務局／日本航空宇宙工業会 城福隆司 主査)

本WGではJAQGウェブサイト維持・改修、JAQGニュースやウェブ通知、各種説明会の企画、JAQGメンバーからの直接問い合わせ等を通じて会員へ最新情報をタイムリーに提供している。

令和5(2023)年は、44件のJAQGニュース配信を行ったこと、IAQGニュースレターの和訳版をJAQGウェブサイトに掲載したこと、SJAC規格のサブスクリプション販売状況、JAQGウェブサイトの移行を行ったこと及びJAQGの活動報告を「航空と宇宙」(日本航空宇宙工業会会報)に掲載したこと等、主としてJAQG広報推進に関わるWGの取り組みが報告された。



城福 コミュニケーションWG 主査
(日本航空宇宙工業会)

(5) IAQG/APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 活動報告
(三菱重工業株式会社 渡辺 秀 APAQGセクター・リーダー)

IAQG/APAQG活動に参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルールなどに反映させることである。令和5(2023)年は、APAQGシンガポ

ル会議（3月）、IAQGブリュッセル会議（4月）、APAQGソウル会議（9月）及びIAQGサンフランシスコ会議（10月）に参加し、9100シリーズ規格他、規格の開発・維持、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化、品質改善活動（パフォーマンス評価）、IAQGデジタル化の推進等について協議したことが報告された。特に、IAQG Single SDOについて、IAQGが規格発行・各国語版翻訳プロセスを構築し、実際にプロセスを試行した結果を検証中であり、各国の意見を反映した上で本格適用に向けた作業を行っていくことが紹介された。



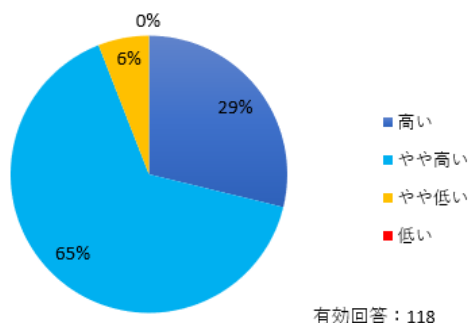
渡辺 APAQGセクター・リーダー
(三菱重工業株式会社)

4. おわりに

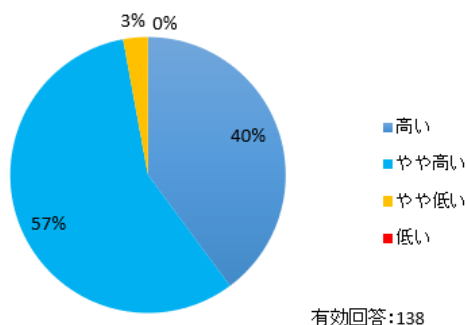
本活動報告会を通じて、JAQG活動に関する理解を深めていただくとともに、参加されたメンバーから活発なご質問及び貴重なご意見を頂戴した。アンケートによれば“満足度”

は「高い」と「やや高い」を合わせて97%（昨年度は94%）と非常に高く、また「高い」の比率も向上した上、「やや低い」の比率も下がっており、有意義な説明会であったと考えている。

報告会全般に対する満足度（令和4年度）



報告会全般に対する満足度（令和5年度）



（アンケート）

私事で恐縮ですが、本年1月に着任して初めての活動報告会であり、色々と不手際もありましたが、皆様のご支援のお陰で無事に開催することができました。この場を借りて改めて関係各位にお礼申し上げます。

なお、本紙では紹介しきれませんでしたが、アンケートで頂戴したご意見は各WGと共有し、今後のJAQG活動の参考とさせていただきます。今後ともJAQG活動へのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 JAQG事務局 部長 城福 隆司〕